



★不乗森神社
里町森38



今月の案内人

不乗森神社宮司 畔柳弘文さん

その1

不乗森神社の湯立神事

市指定文化財

不乗森神社は、もとは「日吉神社」
ともい、鎌倉街道沿いに建てられ
た古社です。
湯立神事は、平安時代中期に始ま
ったと言われ、当時は「探湯神事」
(占いの一種)と呼ばれていました。
戦国時代に一時中断しましたが、江
戸時代中期、1756年(宝暦6年)
に五穀の豊凶を占う神事として復活
しました。そして、平成4年には市
の無形民俗文化財に指定されました。
現在まで神事として行っているのは
県内ではここだけだと思えます。
祭場に3個の大きな釜を据え付け、
湯を煮えたてたせたと、洗米、塩、
切麻(2cm四方ほどの麻と紙)を釜

の中に入れ、青笹でかき混ぜます。
その後、3つの釜から湯をくみ上げ
て神前に供え、もちを祭場の四方に
投げ、豊作と人々の無病息災を祈願
します。祭事が終わると、集まった
人たちは湯を飲んだり、湯にひたし
た紙を体の患部にはったりします。
特に眼病に効くという話が参拝者の
間で広まり、湯にひたした紙をまぶ
たにはる姿が今でも見られます。
現在は、神楽殿前に祭場を設けて、
毎年3月9日に行っています。占い
としての意味合いはなくなっていま
すが、どのように占っていたかわか
るような記録が見つかれば、ぜひ
復活させたいと思っています。